



# 自然観察

No.109  
2014.3月

## 目次

- ・総会議案書案(概要) 2013年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2014年度事業計画(案)・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・フォローアップ研修会報告 誰にでもできる観察会・・・・・・・・ 5
- 観察会を支えるマイ・フィールド・・・・・・・・ 7
- 十勝の自然観察事情・・・・・・・・ 8
- ・海辺で出会う漂着物(4)・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・フィールドニュース・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・ウォッチングレポート・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- ・参加者の声・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・会計からのお願い・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・2014度総会・講演会・懇親会のお知らせ・・・・・・・・ 16
- ・事務局だより・連絡先・・・・・・・・・・・・・・・・ 16



小枝にぶら下がり木の实を食べるエゾリス(野幌森林公園 2月)

## 総会議案書案(概要)

### 1. 観察会実施状況中間報告について

#### (1) 一般観察会

2013年度の観察会は、滝野の集いを除き、45回開催が予定され、3回開催の中止を除き現在(2/9)まで40回開催が無事終了。

このうち報告書未着および報告書不備の6回開催を除く34回開催についての集計概要。

一般参加者 延べ483人

参加指導員数 延べ118人

年代別参加者数では60代が216人とおよそ半数を占め以下50代62人、70代110人。

最終集計は4月の総会で報告、及び会報110号に掲載。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載。

#### (2) 第24回滝野の自然に親しむ集い

場 所：滝野自然学園・滝野すずらん公園

実施日：8月10日(土)～11日(日)

参加料：3,700円(指導員同額)

参加人数：一般18人(8家族、大人9人、子供9人)・指導員10人(当日3人)

### 2. 指導員研修について

#### (1) 全道研修会

テーマ：「6月の新冠判官館森林公園と十勝海岸湖沼の湿原と原生花園を歩いてみませんか」

期 日：6月1日(土)～2日(日)

場 所：新冠町判官館森林公園、ホロカヤントー湖畔・海岸植物、生花苗沼(オイカマナイトー)、浜大樹海蝕崖上の風衝地・当縁川河口右岸湿地、長節湖原生花園

講師・ガイド：札幌市立大学教授 矢部 和夫氏

参加人数：34人(札幌21人、恵庭3人、小樽3人、旭川1人、江別1人、十勝5人)

#### (2) 地方研修会

テーマ：「突硝山で秋の植物観察会と間伐体験」

期 日：10月19日(土)

場 所：旭川市東鷹栖突硝山

参加人数：12人(帯広5人、旭川7人)

## 2013年度事業報告

### (3) 第450回NACS—J自然観察指導員講習会北海道

期 日：6月15日(土)～16日(日)

場 所：恵庭市青少年研修センター

共 催：日本自然保護協会、北海道自然観察協議会

後 援：北海道教育委員会等

講 師：日本自然保護協会等

講 習：自然の保護、自然の観察、野外実習、ミニ観察会

参加人数：38人(うち自然観察協議会加入者20人)

### 3. 会報発行について

106号(6/15)、107号(9/15)、108号(11/15)

109号(14/3/15)発行。

### 4. 組織の状況について

2月末現在で会員数318人

### 5. 理事会・部会・事務局関係について

#### (1) 総会・講演会

期 日：4月14日(日)

会 場：札幌エルプラザ環境研修室

・総会 午後1時～2時20分

議 事：2012年度事業報告、2013年度事業計画、2013年度会計予算

・講演会 午後3時～4時

演 題：「猛禽類について～ハチクマを中心として～」

講 師：島田 昭英氏 自然ウォッチングセンター代表

#### (2) 理事会・各部会・委員会

理 事 会 6/4、8/7、10/17、14/1/14、2/7、4/13の計6回開催

役員改選 選考委員会経過報告(安田秀子選考委員長) 14/1/7

任期満了礼状と2014～2015年度理事就任の依頼 2/13

編集部会 5/21、6/4、6/11、8/27、9/3、9/17、10/22、10/29、11/12、14/2/18、2/25、3/11の計12回

#### (3) 北海道自然観察協議会指導員フォローアップ研修会と忘年会

期 日：11月30日(土)

場 所：かでの2・7会議室

・フォローアップ研修会

午後1時半～4時

参加人数：17人(新指導員3人)

研 修：「不思議とすごいを感じることから始める自然の観察」（横山武彦会長）、「観察会はフィールド探しから」（山本牧理事）、「十勝の自然観察事情」（中村修一理事）、「観察部からのお願い」（山形誠一理事）

・忘年会 午後5時～7時 「大庄水産」

#### (4) 救急救命講習会

日 時：2014年1月18日(土)

会 場：かでの2・7会議室

講 師：日本赤十字北海道支社(応急処置)  
(財)札幌市防災協会(AED/心肺蘇生法)

参加人数 11人

#### (5) 北海道自然観察協会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新

HP アドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

#### (6) 会員情報配信(メーリングリスト)

(13/2/18 理事会再開承認)

#### (7) 観察会の広報

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、地元新聞、おしゃべりからず、オントナ、自然ウオッチングセンター「ウオッチングガイド」、北海道環境生活部環境室環境政策課、札幌市環境局環境都市推進部推進課「エコぼろ」、北海道環境サポートセンター・「メールニュース環境★ナビ北海道」

## 6. 他機関との連帯、交流

### (1) 講師派遣

各種組織主催の講師の派遣実施

### (2) 共催・後援

各種組織団体との共催・後援を実施。

(後援協力：札幌市・恵庭市教育委員会  
滝野の集い、第450回NACS—J自然観察指導員講習会北海道)



### 【備品・分野別ガイド】★観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンフアー ブルミニ	2台	根岸徹 札幌市 Tel 011-891-0556
タモ網	30本	同上
大型旗 (120×180)	1枚	池田政明 Tel 011-708-6313
小型旗 (35×43)	3枚	須田節 札幌市 Tel 011-752-7217
ポール(折り たたみ式)	3本	同上
トリプル バグビューアー	5台	山形誠一 札幌市 Tel 011-551-5481

### ★分野別ガイド

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答して下さる方々です。

#### 豊平川水系 水生昆虫、魚類

根岸 徹 011-891-0556

004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条5丁目2-27

#### 昆虫(甲虫)

堀 繁久 011-571-2146

005-0832 札幌市南区北の沢2丁目20-18

#### 植物全般

与那覇モト子 0133-74-7952

061-3211 石狩市花川北1条2丁目148

(分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局へ連絡をお願いいたします。)

## 総会議案書案(概要)

### 1. 観察会の開催について

- (1)今年度の観察会実施計画は別表「2014年度自然観察会予定表(指導員用)」のとおりです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)今回掲載以外にも企画があれば観察部山形誠一(札幌市中央区)へご連絡ください。できる限りバックアップしたいと思います。
- (2)各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び2014年度観察予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- (3)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は、観察部会計小川祐美(小樽市)へ送付してください。振り込み用紙を利用する場合は会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号：2770-9-34461

(通常払込加入者負担の用紙)

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

- (4)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。また、観察会報告書には、観察会の様子が分かる写真も同封するなどご協力を

### 【観察会事故緊急連絡】

事務局へ連絡をお願いします。

保険会社(代理店)：アスカ・リスクマネジメント Tel1011-873-2655 日曜、祝日休業 普通傷害保険(エース損害保険株式会社) 死亡保険：500万円 入院保険金額：5,000円(180日以内) 日額 通院保険金額：2,500円(90日以内) 日額
---

### 4. 指導員研修について

#### (1)全道研修会

日時：2014年6月14日(土)～15日(日)  
場所：第1日目 美瑛町十勝岳望岳台・小松原原生林(大雪青少年交流の家泊)  
第2日目 旭川市嵐山、コタン・チセ、原生林歩道  
テーマ：「北海道内陸部の原風景～大雪山麓のアカエゾマツと旭川・アイヌ聖地の森」  
参加料：10,000円(宿泊・夕朝食・札幌往復バス乗車料金を含む)  
札幌市JR北口バス駐車場集合・解

自然観察 109号(4)

## 2014年度事業計画(案)

お願いします。報告は観察部山形あてE-Mailで報告いただいても結構です。

- (5)観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用してください。
- (6)観察部では備品の充実をはかっていきたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討していきたいと考えています。

### 2. 「第25回 滝野の自然に親しむ集い」について

日時：8月9日(土)～10日(日)

滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部の各1名選出)を組織して実施予定です。札幌市南区滝野自然学園で開催します。

### 3. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、1泊2日以上は該当しません。

散(十勝岳望岳台集合・旭川市内解散も可)

#### (2)開催地研修会

日時・場所・テーマ未定

### 5. 会報発行について

110号(6/10)、111号(9/9)、112号(11/11)、113号(15/3/10)の4回発行予定  
事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の45日前とします。

### 6. その他

・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制作りを検討していきたいと考えています。

・事業およびに観察会の予定や実施状況は会報及び北海道自然観察協議会の HP でお知らせします。<http://noc-hokkaido.org/>

#### <講師派遣依頼について>

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

#### <総会・講演会>

日時：2015年4月12日(日)(第2日曜日)  
場所：札幌エルプラザ環境プラザ研修室  
1.2(予定)

#### <理事会>

6月、8月、10月、14年1月、2月、4月

#### <フォローアップ研修講演会&忘年会>

日時：2014年11月29日(土)  
講演会 午後3時～5時  
内容 未定  
忘年会 午後5時～7時  
場所：札幌エルプラザ環境プラザ研修室  
忘年会会場(未定)

#### <救急救命講習会>

責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

日時：2015年1月中旬予定

場所：札幌市かでの2・7(予定)  
講師：札幌市防災協会、日本赤十字社北海道支部 会員以外からも受講者を募ります。事務局へお問い合わせください。

#### <自然観察指導員講習会について>

2015年度開催に向けて、場所や体制の検討。

#### <個人情報保護法について>

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報、観察会活動の目的以外には利用しません。

また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。会員名簿は外部に流出しないようにお願いします。

#### <観察会カードについて>

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」の無料配布(送料発注者負担)を継続中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

#### <観察会予定のHPへの掲載>

観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然観察協議会のHPに掲載します。

## フォローアップ研修会報告

本報告は、昨年(2014)の11月30日に開催した「2013年度北海道自然観察協議会フォローアップ研修会」で、横山 武彦本協議会会長をはじめ、山本 牧理事、並びに中村 修一理事からそれぞれご報告された内容を基に、改めて書き直して頂いたものです。

### 誰にでもできる観察会

～「不思議」と「すごい」を感じることから始まる自然の観察～

北海道自然観察協議会会長 横山 武彦

#### はじめに

自然とふれあい、そこに感動や出会い、驚き、汗を流す楽しさや喜びが生まれると、

自分の中にしまっておくだけでなく、誰かとそれを共有したい、みんなにも知ってもらいたいという気持ちが観察会へと導いて

くれます。観察会には、私たち協議会が開催するものやNPOなど各団体の開催する観察会やツアーもあります。孫の手を引いての公園の散歩や学童保育の児童との遠足の道すがらでも、そこに「自然観察」の視点があるときは草が1本、虫が1匹との出会いであっても観察会の成立です。

観察会をしてみたいけれど、と不安に感じる時は、まずいろいろな観察会に一般参加者又は開催協力者として参加して、様々なノウハウを吸収し、同士の仲間と一緒に企画・開催していくのが手っ取り早いと思います。

観察会をどこで、どのように開催するかを考えるに当たって確認しておきたいこと、こんなことを参考にしたい、ということについて述べてみたいと思います。

### 1、観察会のフィールドとねらい

観察会をどこで、何時したいのかは、観察会をどんな人を対象にどんなねらいを持って行うかにより決まります。観察の場所（フィールド）には平地や山地の森や林、草地、湿原、湖沼、河川、河畔などのほか、市街地の街路や公園、空き地、学校の校庭並びに水田の畔や水路、海岸砂丘、高地、火山地などがあります。それぞれ生えている植物や棲息する動物の種類もその生まれた歴史や気候、地形などにより異なります。



精進川 親子観察会

観察するフィールドにはどんな背景があるのか、見られる動物や植物についても季節によりどのような変化が見られるか、観

察時期はいつがよいのか、何をどのように感じて、気付いてもらうか、知ってもらうかなど、観察のポイントをどこにおくかによりその場所やコース、時期を決めることとなります。

参加者に植物や動物の名前を知ってもら



野幌森林公園の自然林（二次林）

うこと以外にも、自然とのふれあい、動植物の生活史や生態、生態系や環境とのかかわり、人の生活・文化との関係を知るなどいろいろ考えられます。それは参加者がどのような人なのかにより話題が決まることでしょう。参加者は、家族、地域のこどもたち、児童・生徒、町内会の仲間、同好の仲間、親子、一般市民？ 参加者の自然体験度や興味関心、年齢構成は？

また、観察を主としない行事、職場やPTA、少年団などが行うキャンプやレクリエーション、奉仕活動（海岸清掃、植樹など）、遠足・ハイキングなどのスケジュールの中に自然とのふれあいやちょっとした観察会を意識的に取り入れてみるのもよいのではないのでしょうか。

開催の時期ですが、春夏秋冬のいずれにしますか？ 特定の植物について、咲いている花だけでなく、葉の広がる様子や種子の散布も見るにはそれぞれ異なった時期に訪れなければなりません。同じフィールドで複数回行うか、年に1回でも年ごとに季節を変えて実施するかなど、観察のねらいを変えて行うのも新しい発見が生まれます。

【今回の報告は、前号108号に掲載した「自然観察を開催しよう」の続きとなります。】

（編集部）

# 観察会を支えるマイ・フィールド

山本 牧(旭川市)

## 自然観察活動を続けるよいフィールド条件とは

自然観察の活動を続けるには、自分たちに合った、使いやすい地元のフィールドがとても大切です。旭川では、グループ発足後、四季ごとに定例観察会を開き、それを3年単位でフィールドを変えています。最初は嵐山、次が突哨山、今年からは旭山です。そうした経験から、「よいフィールド」の条件や具体例を考えてみます。

観察フィールドの条件としては、自然環境が多様で、自由に入出りでき、安全で、悪天候でもカバーしやすいことが重要です。

## 環境の多様性が保たれていること

まず環境の多様性。これは必ずしも希少種や大木があることではありません。身近でも丁寧に見ていくと、さまざまな植生や地質が見つかります。突哨山はカタクリの大群落で有名ですが、これは昔伐採された明るい二次林の下に春植物が広がっています。明治時代からの放牧地はササ地やシラカバ林となり、面積の3割ほどは針葉樹人工林です。樹齢100年を超える大木はほとんどありません。いわば回復途上の若い林です。

森林相としては、アイヌ民族の聖地として大事にされた嵐山のほうがはるかに豊かで、巨木が多いのですが、いろんな樹齢や植生を見比べるなら、里山的に利用されてきた突哨山のほうが、観察や研修には向いています。

また、手入れの遅れた人工林があることを利用し、間伐体験もできます。込み合ったトドマツ林で、間伐の目的や効果を説明し、伐る木を選んでのこぎりで切り倒す体験を研修で行いました。倒れた後に青空が広がり、新たな光環境ができることが実感できます。歩道をはさんで手入れしないままと、間伐をしっかりとした人工林が両側で

比べられるようになっていて、明るくなっ



た林内には、ミズナラやイタヤの稚樹が生え始めています。

壊してはいけない貴重な大自然もいいものですが、人の暮らしに寄り添ってきた里山にも、豊かな自然があります。早春にはボランティアの花案内人活動があり、旭川グループも協力していますが、そこでは白いカタクリなどの珍種、希少種は案内しません。盗掘の事例があったからです。珍種を見るよりも、なぜ春にこんなに花が咲くの？ ハチと花はどんな関係があるの？ 植物の越冬は？ などと、自然のしくみの不思議さを伝えるようにしています。

## 市民に開放され、無料で自由に入出りできること

市民に開放され、無料で自由に入出りできることも大事な条件です。下見を含め、普段から通っているからこそ、変化に気づき、きめ細かい観察会が開けます。野生動物はなかなか出てきませんが、足跡や食痕はいつ行っても「ガイドのネタ」になります。ベテランの目の付けどころ、説明の仕方を見習うことも容易です。ほかの人も利用するならば、歩道の歩き方、目印の付け

方などに工夫が必要です。

### 安全性が確保されていること

安全性もフィールド選びのポイントです。落石や倒木のありそうな場所は、コースから外します。特に強風の最中や直後は落枝などが危険です。慣れたルートは、異常に気付きやすいものです。同じフィールドを四季を通じてみんなで見ていると、いろいろな変化が見えてきます。



雨宿りや風よけができ、トイレもある施設は大事です。突哨山の旭川側に水飲み場

はありません。カタクリ広場口の駐車場とあずまや、簡易トイレは自然保護団体が設けたもので、とても助かります。森に入ると何も施設がないのですが、樹林は意外に雨風がしのげるので、小雨でもお弁当は食べられます。

その点、嵐山は市営の公園センター、民営のビジターセンターがあり、冬の休憩や昼食、雨天の解説などはとても楽です。遊歩道もたくさんあるので、時間や天候、体力に応じて、柔軟な観察コースを設定できます。

旭川グループは、日帰り研修のときでも、必ず自主泊まり込みをします。元農家の納屋ですが、薪ストーブ付きの小部屋があり、持ち寄った食事と飲み物で、一夜を明かします。今年からは若いメンバーも増えそうで、楽しみにしています。皆さんも個人、グループで「マイ・フィールド」をお楽しみください。

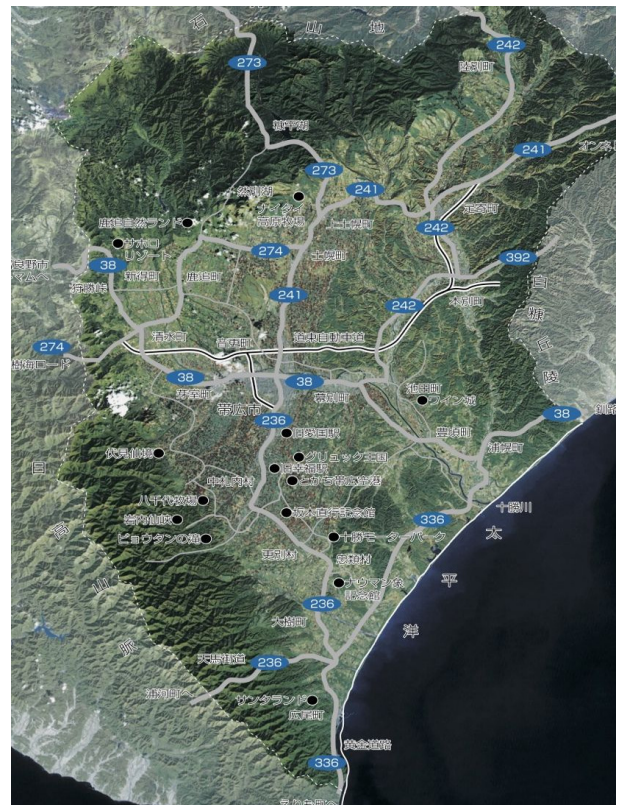
## 十勝の自然観察事情

中村 修一(帯広市)

横山会長から、十勝の自然観察について話をするようにとお話があり、十勝での活動歴はせいぜい2~3年という私が、研修会の場で話をさせてもらうことになりました。そのような訳で不足しているところも沢山あるかと思いますが、簡単に内容をご報告します。

### ○十勝の自然

十勝地域は、西に日高山脈、北に石狩山地、東に白糖丘陵が壁となり、南は太平洋にさえぎられ、他地域と区切られています。周囲を囲む山岳地帯は原生的な自然が比較的残され、海岸線にも汽水湖が連なり、原生





花園が広がる豊かな自然が残されています。

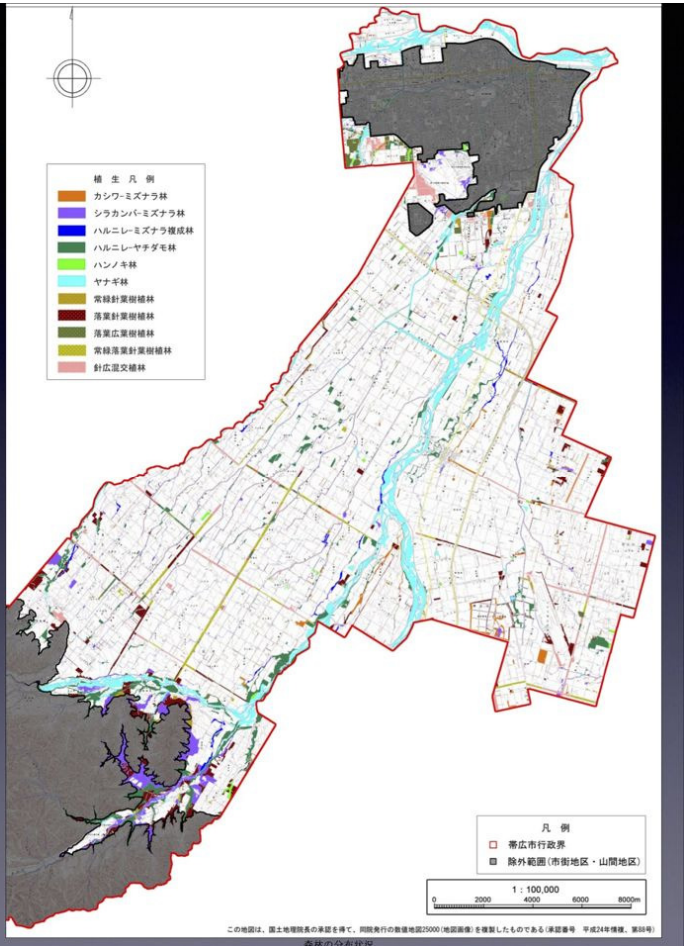
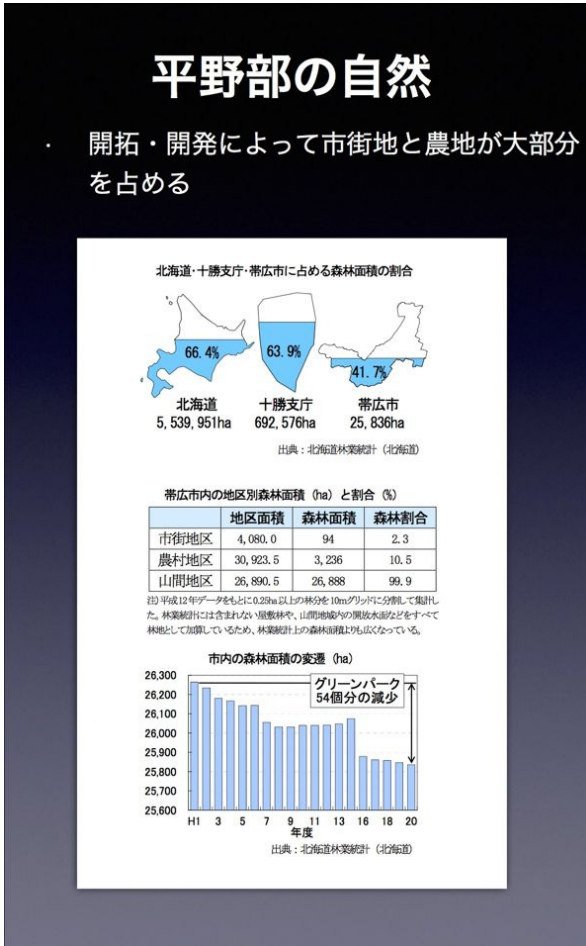
それに比べて平野部は近代の開拓で開発し尽くされた感があります。平野部は帯広中心部などの市街地と農耕地帯に大きく別れ、帯広市のデータでは、農村地帯でさえ森林面積が10%程度とほんの少ししか残されていない状況で、しかも年々減少が続い

い場所で、昔アイヌのチャシがありました。

また自然林と針葉樹の人工林があって、バラエティーに富んだ観察会ができます。

・河畔林と札内川のケショウヤナギ

十勝川、札内川などの十勝川水系には、だいぶ開発が進んだものの河畔林が残され



ています。畑が連綿と続き、それを区切るように防風林が現れ、時たま島のように孤立した林がある、というのが十勝平野の風景かと思えます。

○自然観察に利用されている場所や施設

山岳地帯や海岸線については比較的紹介されていると思いますので、主に平野部での観察スポットをご紹介します。

・国見山自然観察教育林

市街地にも比較的近く歩道も整備され、よく自然観察会に利用されている場所です。平野部に半島のように突き出した眺めの良

ています。また札内川には氷河期の遺存種、ケショウヤナギの国内最大の生息地があります。

・緑ヶ丘公園周辺

帯広の中心部にほど近い広大な公園で、動物園や美術館などが併設されています。総合的な文化施設である帯広百年記念館があり、自然観察会も様々な切り口で多数開催されています。十勝の湿性林の姿をとどめる4.4haに及ぶ野草園も併設され、四季の草花を楽しむことができます。

・帯広の森

元々畑だったところを森に生まれ変わらせようと、70年代から市民植樹などによって作られた森。現在では400haの面積を持つ立派な森になりました。3年前に中心施設「はぐく一む」がつくられ、毎週のように観察会や体験活動を行っています。

### ・農業高校カシワ林

カシワ林は十勝の原風景と言われていますが、平野部のカシワ林はほとんど失われてしまいました。その中で市街地にわずかに残された貴重な林です。近年隣接する道路拡幅のため、一部伐採が計画され、自然保護団体などが反対しています。

### ○自然観察会の実施状況

先にあげた百年記念館や「はぐく一む」の



ような公的機関の主催する観察会の他に、自然保護団体など、多くの市民団体が観察会を行っています。自然観察協議会としてはこれまで会員同士で連絡を取り合うこともなく、活動も行われていませんでした。しかし昨年の指導員講習会に十勝から8名の参加があり、その後もメールでの情報配信などつながりを持っています。その中で昨年10月、横山会長の来帯の機会に緑ヶ丘公園で観察会を実施することができました。今後も連絡を取りながら、「自然観察指導員」として活動できる機会を増

やして行きたいと思います。また、現在十勝で開催されている観察会は、ネイチャーゲームなどの体験型の観察会が少ないように感じています。今後指導員養成講座やネイチャーゲームリーダー講習会の開催などで自然体験の裾野を広げる活動を行えたら、と考えています。

### ○自然体験のフィールド作り

またそれらの活動を行うには、自由に使えるフィールドが欲しいところです。一つの候補として考えているのが自宅の裏手にある孤立林です。帯広の農村地帯にある我が家の裏には約2haの自然林があり、これまでも数回の観察会を実施してきました。今後も整備を進める中で、誰もが気軽に集まれる自然体験のスペースを作れたらと思っています。自然観察指導員の皆さん！帯広にお越しの際はぜひお立ち寄りいただき、活用のアイデアやアドバイスなどお願いします。



## 海辺で出会う漂着物(4) 漂着物は海からの贈り物

いしかり砂丘の風資料館学芸員 志賀 健司

海辺を歩いてコハクやガラス玉、きれいな貝殻が見つかるのが嬉しいですね。しかし我々漂着物研究者は、お宝をただ集めて喜んでいるだけではありません。

イルカの漂着からは彼らの生態や海洋の化学汚染のデータが得られます。漂着ゴミからは海流の経路や国際的なゴミ問題が浮かび上がってきます。北海道ではまだ発見例はありませんが、ダイオウイカやメガマウスのような“幻の動物”の死体が漂着することもあります。漂着物とは、陸生動物である人間には未知の領域、海の世界の情報を教えてくれる“海からの手紙”なのです。この連載の最後として、その1通を紹介しましょう。

### ■アオイガイ大量漂着は何を語る？

手紙の主は、アオイガイ。前回も紹介した、殻を持って浮遊するタコの仲間です。実はこの漂着状況の変化が、気候変動のよ



写真1 2010年、あるビーチコーマーが1日で採集したアオイガイ。

うすを教えてくれるのです。アオイガイは熱帯～温帯の海に生息しています。昔は北海道では滅多に見られなかったそうですが、

2000年代後半以降、道南や石狩湾などの日本海沿岸で際立って漂着数が増加してきました。私はこの10年近い間、石狩湾を中心に漂着状況を調べてきましたが、その結果、年ごとの海水温の変動と漂着数とは非常に強い関連があることが判明しました。例えば海水温が平年よりちょっと低かった2009年や2011年秋、アオイガイはほとんど見つかりませんでした。ところが2010年や2012年は、これまでで最大の漂着数を確認しました(写真1)。この大漁だった兩年の海水温を調べてみると、2ヶ月間の平均でも平年より3℃前後も暖かかったことがわかりました。石狩湾沿岸のアオイガイ漂着数は、周辺の海水温が高いほど増加するのです(図1、2)。

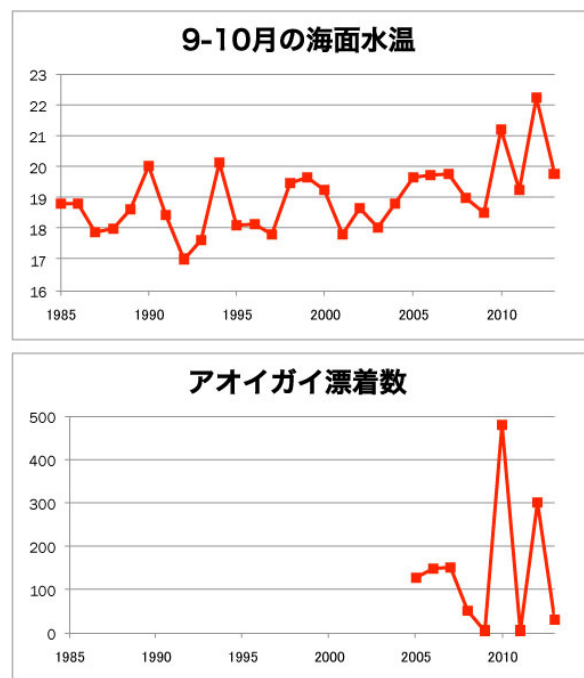


図1 石狩湾周辺の秋の海面水温とアオイガイ漂着数との関係。2010年と2012年は海水温が高く、漂着数も非常に多かった。(海面水温は気象庁の観測値)

暖かい海の生物なので、水温が高いと増えるのは当たり前と言えは当たり前です。しかしこれほど明瞭に海水温の上下に同調

考えられますが、それは今後の研究課題です。

ところで、アオイガイ漂着を調査する上で最近の悩みは、ライバルが急増したこと...。この記事のようにいろいろな所で紹介してしまうため？か、この2~3年、北海道でもアオイガイ狙いのビーチコーマーがどんどん増えています。シーズンに入ると、早朝に浜に着いても他の人の足跡がすでに...というケースがほとんど。う~ん、くやしい。いやいや、アオイガイは誰のものでもないの、もちろん早い者勝ち。でも見つけた方は、データ(採集日、場所、殻サイズ)だけでいいので、情報をいただくと助かります！

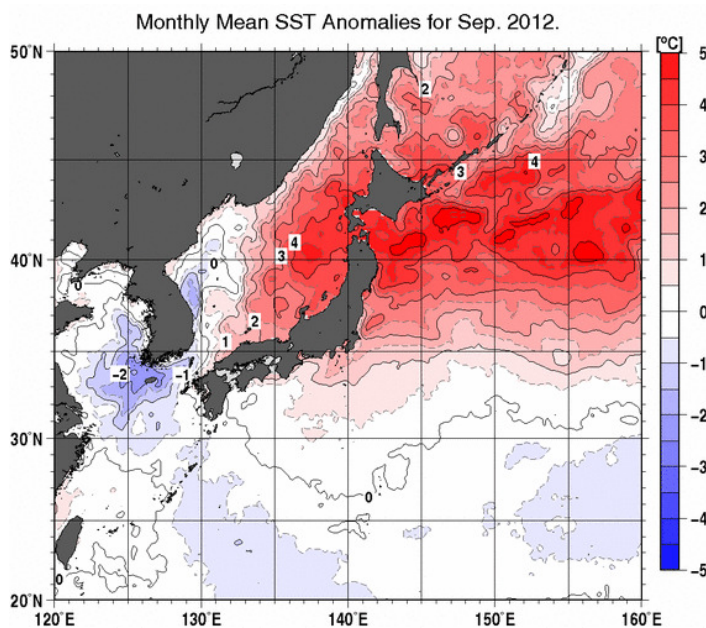


図2 2012年9月の日本周辺の海面水温の  
平年差。北日本周辺は平年より4℃も高い。  
(気象庁ホームページより)

して増減していることが確かめられた漂着物は、今のところアオイガイの他には知られていません。これが“地球温暖化現象”の一端なのか、北太平洋で通常見られる数十年周期の気候変動(「北太平洋十年規模振動」など)なのか、あるいはまったく別の気候変動なのかは不明ですが、地球の気候を支配している海洋の変動を示す、1つの指標となるのです。

しかしその一方で、本州や九州などにおけるアオイガイの大量漂着現象は、海水温だけではうまく説明できていません。2013年4月、九州北部の各地でアオイガイの“超”大量漂着が発生しました。テレビや新聞でも取り上げられたので、北海道でもご存じの方もいるかと思いますが。現地のビーチコーマーの中には1人で1500個体も採集した人もいます。しかし当時の現地の海水温は、ほとんど平年並みだったのです。これには頭をひねりました。風向・風速や生物間の相互作用など、他の要因が

### ■海辺を調べる“ウミベオロジー”

これまで1年間、4回にわたり、海辺で出会う漂着物を紹介してきました。おそらく「自然観察」の読者のみなさんなら、海岸を歩くこともしばしばあるかと思えます。これからは何か漂着物を見つけたら、「あ、きれいな貝殻」「ゴミが多いねえ」「動物の死体だ、気持ち悪い」というだけでなく、その漂着物の正体は？どこからどうやってここまで流れて来た？この漂着は何を教えてくれる？と、そこまで考えていただけるのではないかと思います。

地球表面の71%を占める海。まだまだわからないことだらけですが、海洋の研究のためには、調査船や潜水艇、人工衛星が不可欠。しかしそれには大規模な設備、莫大な経費と時間がかかってしまいます。ところが、海辺を歩き、漂着物を拾うだけでも海洋物理学、海洋生物学も研究できます。必要なのは、これはなに？どうして？という疑問の心と客観的な記録、砂浜を歩ける程度の体力、そして、ちょっとの早起きだけ！(←これが一番大変か...)

人間が住む世界「陸」と、未知の世界「海」。この2つが接する場所が、海辺。海辺は2つの世界の境界であり、人間にとっては“海を覗く窓”。そして海辺には、海・陸・川・空からいろいろな物が集まり、様々な

現象が起きます。今回は漂着物の話をしましたが、そのほかにも、海上の空気と陸上の空気が重なって生じる蜃気楼（写真2）、



写真2 石狩湾で見られる上位蜃気楼。2013年5月17日に発生したもの。高島岬の沖の小島が水平線上に伸び上がって見える。下は通常の景色。

海流を介して分布を広げる植物、海の栄養塩を陸へと運び上げる漂着遺骸やサケの遡上（写真3）、などなど——。このよう

な海辺の現象に関する調査研究を、僕は海辺学、“ウミベオロジー”と呼んでいます。勝手に呼んでいるだけですが、海に囲まれた日本で、生命や地球環境の鍵を握る海について、多くの人が知り、勉強し、研究していくキーワードになると信じています。



写真3 産卵後のサケの死体、ホッチャレ。物質循環の面で見ると、海洋の栄養塩を陸上に運び上げる役割を担っている。

## フィールドニュース FieldNews

### 全国子どもサミット in 北海道

行天 純子(札幌市)

8月6日～7日「学校林・遊々の森・全国子どもサミット in 北海道」が定山溪地区で行われました。昨年は京都で行われた。今回は北海道から9校、本州から6校で遠くは福岡・岡山からの参加でした。

私の活動しているNPO法人森林遊びサポートセンターは、実行委員主幹メンバーとして参加する。第1日目は、参加校の「森林活動体験発表」が小金湯アイヌ文化センターで行われた。発表はパソコンを使い、大画面に活動の様子を写し出しての説明です。元気で凛として素晴らしかった。長年学校林で交流のある駒岡小学校・藤の沢小学校も参加した「ツリーライミング・子供樹木博士認定会・植樹・観察会などやっています」「一年を通して

自然の中で目をこらし、耳をすまして観察活動などを通して自然を愛し、友達や森林遊びサポートセンターの方々と関わりを通して人の温かさを感じている」と発表。

中でも宮城県石巻市北上小学校の発表は、震災時全員が裏山に駆け登り津波から命を取り留め、普段の訓練の成果から今後裏山の急斜面の見直しを子供達から学校や地域に働きかけ、取り組んでいる様子は印象的でした。2日目は初雪コースで記念植樹や木の太さを測定し樹木の説明を聞く。一組10～20人が6組になり、限られた時間での説明の担当でした。

6月に恵庭で行われた「自然観察指導員講習会・北海道」に参加する機会に恵まれた。「自然観察からはじまる自然保護」に道内から精鋭が揃い、物怖じしていた。青森の小関先生が「自分の足元にもたくさんの自然観察があるんだよ」の言葉に目から鱗が落ちる思いでした。この研修を受けたことは、子どもサミットへの不安を軽減してくれた。今自分に出ることを少しでも子供たちに伝えていけたら、嬉しいと思います。

## ウオッチングレポート



小樽市 旭展望台観察会 2013/4/27

### スプリングエフェメラル

当日は「午後から雨」の天気予報が、朝からの雨。

北斜面の雪は解けず、植物の芽吹きもほんのわずかでした。前日に行った最終の下見では、遊歩道は雪に覆われ、その下を雪解け水が川となって流れていました。

そのような状況だったので、下から観察地に行くのはあきらめ、雪道を上り詰めて、上から目的地に向かいました。

雪の量が多く、遊歩道も（なれない人に

は）分からないような状態でしたが、それでも立ち木の周囲は丸く雪が解けており、わずかでしたがカタクリのつぼみが観察できました。

参加者の皆さんにとっては、カタクリの花が見られなかった残念さより、雪を割って芽を出しているカタクリの生命力に感動を覚えたようでした。

(本間 正一)

小樽市 中野植物園 2013/10/12

### 私設植物園の秋を巡る

大雨（警報発令中）で、中止しようと思ったが、参加者が来たら困るので待機していたら、札幌市から2名が参加した。札幌では雨が降ってはいなかったとのこと。

開始時になると豪雨が奇跡的にやんだの

で出発、深まり行く秋の気配を楽しんだ。

空模様が怪しくなり、少し早めに切り上げたが、解散した途端にまた雨が降り出し、なんとも運の良い観察会でした。

(広岡 賢治)



## 参加者の声



苫小牧市 北大研究林 (14/1/12)

苫小牧市 藤井麻友美

1月12日北大研究林の自然観察会に参加させていただきました。天気も良く気分も晴れやか、少し寒かったですがとても勉強になりました。

木の幹にコケが生えているのは、空気の良い証だということを知りました。そのコケも種類がたくさんある様で、形も色も微妙に違うことに驚きました。ツルアジサイとノリウツギの花の違いがやっと分かりました。ホオノキの冬芽から葉が出て、花が咲いて落ちるまでを指導員の方が写真で解

説してくださり、とても分かりやすかったです。また鹿が角を木に研いだ跡を見ることができてとても貴重でした。

普段なんとなく散歩していても何も気づかないし、分かりません。観察会に参加することで自然の摂理やすばらしさを感じます。自然があって私たち人間がいること、自然について学び自然を大切に生きていきたいです。今日は本当にありがとうございました。また参加させていただきます。

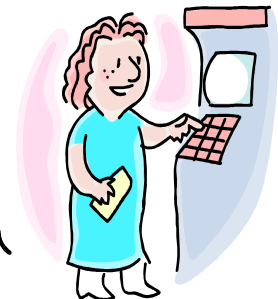
### 会計からのお願い 忘れていませんか 会費の納入を！！

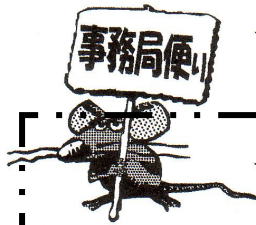
本協議会の活動は、会員の方の会費にて運営されています。会費納入が滞ると、会費を値上げするとか活動を縮小するなどしてはなりません。2013年度までの会費の納入がまだの方は、同封の振込用紙(払込取扱票)でお願いします。

- ・年度会費は 1,500 円です。
- ・未納の方には、金額を入れた振込用紙を同封しています。
- ・封筒の氏名欄に納入済みの年度までが記載されています。
- ・既に入金済みの方には、振込用紙を同封しておりません。
- ・通信欄は、住所変更等などの連絡にお使いください。
- ・差支えがなければ、メールアドレスや電話番号などを記入願います。

※退会の申し出があるまでは、会員です。届出が出されるまで会費の納入をしていただきます。郵便振替口座 02710-1-8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 三澤 英一





## 2014 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ

### 《総会》

日時：2014年4月13日（日）午後1時～2時半（受付12時45分～）

場所：札幌エルプラザ環境研修室1・2（札幌市中央区北8西3 Tel 011-728-1222）

協議：(1) 2013年度事業報告 (2) 2013年度決算報告・監査報告 (3) 2014年度事業計画案  
(4) 2014年度予算案 (5) 理事・役員選出(6)その他

《講演会》 午後2時45分～4時半（札幌エルプラザ環境研修室1・2）

演題：『北海道医療大学の森～客土事業によって荒れ果てた森を復活し里山へ～』

講師：北海道医療大学薬学部准教授 堀田 清氏

《懇親会》 午後5～7時 場所山わさび北8条店〔札幌エルプラザ 地下1階〕

会費3,000円 ※参加希望者は、4月10日まで事務局池田にご連絡ください。

Tel/Fax 011-708-6313

Email [ecology@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:ecology@cocoa.ocn.ne.jp)

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は

郵便振替口座 02710-1-8768 振込加入者名北海道自然観察協議会  
会計 三澤 英一 北広島市松葉町5丁目9-16

Tel 011-372-0745 E-mail [qqyn8ppd@space.ocn.ne.jp](mailto:qqyn8ppd@space.ocn.ne.jp)

観察会保険料は

郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail [streamy@estate.ocn.ne.jp](mailto:streamy@estate.ocn.ne.jp)

観察会報告書・資料は

観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Tel/Fax 011-551-5481 E-mail [seiichi.y@jcom.home.ne.jp](mailto:seiichi.y@jcom.home.ne.jp)

退会・住所変更連絡は

事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町4丁目9-16

Tel/Fax 011-708-6313 E-mail [ecology@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:ecology@cocoa.ocn.ne.jp)

事故発生等緊急時は

7カ・リスクマネジメント担当 本間氏 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は

編集部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

Tel 011-694-5907 E-mail [cin55400@rio.odn.ne.jp](mailto:cin55400@rio.odn.ne.jp)

表紙写真 森 繁寿



北海道自然観察協議会

自然観察 2014年 3月15日/第109号 年4回発行

（会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています）

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部